

都道府県等名：岡山県

目的	目 標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	事後評価	
		目標値	実 績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		評価及び指導方針等	第三者の意見
Ⅰ 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 1.5%	2.1%	99%	岡山県	1.5%	99%	200,000	農薬の使用基準の遵守、安全かつ適正な使用及び保管管理については、啓発資料の作成や研修会による指導、農薬販売者に対する立入検査時の周知啓発及び改善指導を継続して実施しており、農薬の不適切な販売及び使用の発生割合についての目標を概ね達成できた。 そのため、これまでの指導による成果は十分に出ていると考えており、今後も農薬の使用基準の遵守、安全かつ適正な使用及び保管管理、適切な取扱いや販売の推進などの指導を継続していく。	農薬の使用基準の遵守、かつ安全で適正な農薬の管理及び販売について、適切に啓発資料の作成や研修会による指導が行われている。「令和6年度防除業者安全使用等研修会」等と題された非常にわかりやすい資料も作成され、講習会に使用して対応していることは高く評価できる。農薬販売者に対する検査時の周知啓発および改善指導も適切に実施されていると判断した。今後も、引き続き、農薬の適正使用の総合的な推進についてご指導をお願いしたい。
	海洋生物毒等の監視の推進	海洋生物毒のモニタリングの総実施数 940 回 有害微生物又はノロウイルスのモニタリングの総実施数 98 回	1,046 回 98 回	111% 100%	岡山県 岡山県	940 回 98 回	111% 100%	351,561 604,439	二枚貝類（カキ・アサリ）の生産時期を中心に調査計画どおり効率的な調査が実施でき、貝毒に係るリスク管理の徹底及びノロウイルスを保有するカキの流通を防止し、貝類の安全性の確保が図られた。 アサリ等の食用二枚貝類の毒化や養殖カキ等で発生のみられるノロウイルスによる食中毒は消費者の関心も高いことから、特に食の安全性の確保が求められる。貝毒発生状況の監視には、漁場における貝毒原因プランクトン調査及び二枚貝類の貝毒検査が最も重要となる。食中毒発生リスク低減のためには、カキのノロウイルス検査が不可欠である。本事業において実施された調査の時期、検査の手法、対象範囲及び回数等は的確、適正で、効率的な貝毒やノロウイルスのリスク管理が行われており、評価できる。 また、万が一、食中毒が発生すると、健康被害が発生する可能性があることから、県民への迅速な情報提供と食中毒への適切な注意喚起を促すとともに、生産者と連携した詳細な漁場監視体制により、安全性の確保を図っていただきたい。	
Ⅱ 伝染性疾病・病虫害の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度 103.1	104.5	101%	岡山県	103.1	101%	2,905,000	欧州・アジア諸国における口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生状況、国内における豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況等、家畜衛生に関する情報を迅速・的確に畜産農家及び関係機関に対して提供することで、関係者の家畜防疫に対する意識が高まった。また、家畜伝染病の発生防止のため、衛生指導、慢性疾病等の実態調査・分析・指導等の取組を強化し、検査機関における検査機器の校正及び体制の整備を実施したことで、伝染性疾病に対する的確な対応や検査が可能となり、農家の家畜伝染病に対する防疫意識の向上及び防疫体制の充実強化が図られた。 令和6年度は、家畜の伝染性疾病の発生件数及び検査件数が当初の目標から大	主要な検査機器の精度管理と併せ必要な消耗品を確保することで各種検査に対応し、成果を上げた。また、家畜衛生情報の収集と得られた成果の業績発表会等での発表、また広報誌を発行し農家へわかりやすく成果の普及・啓発を行っており、農場及び関係機関・団体が共通認識するうえで有効であり高く評価できる。また、万が一の家畜伝染病発生に備えた防衛演習を、県・市町村・県民局や地域事務所・家保など関係機関ごとに開催し、それぞれの対応を確認することで発生時の対応について理解を深め、体制強化に努めたと判断する。さらに畜産物の安全性確保の検査、また地域の指導機関が構成する指導チームによる指導・乳汁検査による効果確認など地域一体型の乳
					〈地区推進事業〉 おかやま酪農業協同組合	103.1	101%	215,000		

									きく減少し「発生件数：目標 98 件→76 件（▲22 件、約 22.4%減）」「検査件数：目標 47,697 件→43,415 件（▲4,282 件、約 9.0%）」となった。減少の主な要因としては、発生件数では「牛伝染性リンパ腫の届出件数の減少」、検査件数では「牛サルモネラ症の終息による検査頭数の減少」であると県では分析している。以上の結果、達成度は「101%」、評価は「A」となった。 今後も、家畜衛生広報を通じた情報提供や必要に応じた疾病発生情報、飼養衛生管理に関する情報等の情報提供に積極的に取り組むことで、円滑な衛生対策指導に努めたい。	房炎発生防止や県下のバルク乳検査による乳質改善検査・指導など効率的な指導事業の推進と判断するものであり、伝染性疾病対策も含めた総合的な衛生対策を推進したものと判断する。今後の業績発表に、成果を期待するものである。
	養殖衛生管理体制の整備	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合 64.3%	64.3%	100%	岡山県	64.3%	100%	473,000	巡回指導の継続により養殖業者との連絡体制が構築でき、疾病発生の兆候が見られた際には迅速に対応できている。また、講習会により水産用医薬品の適正使用等についての最新情報を養殖業者へ周知することができた。	養殖魚類等の安全・安心な供給のためには、持続的養殖生産確保法に基づく防疫制度及び食品衛生法や医薬品医療機器等法などによる養殖衛生管理体制の周知徹底の他、年によって異なる魚病の発生に対しては、迅速な情報収集と感染経路の特定や疾病ごとの適正な医薬品使用についての対応が重要であると考えられる。 こうしたことを踏まえ、本事業では、法令に基づく医薬品適正使用のための養殖衛生対策会議の開催や養殖衛生管理指導の他、各養殖場の巡回指導による疾病伝播防止対策や医薬品残留検査等が的確に実施されている。こうした対応により、適切な養殖衛生管理体制の整備や養殖業者等の医薬品使用に対する正しい認識が醸成されてきており、評価できる。 今後とも、県民への安心・安全な水産物供給のため、養殖業者や漁協への養殖衛生管理体制整備の一層の充実・強化を図っていただきたい。
	病害虫の防除の推進	従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上率 125%	125%	100%	岡山県	125%	100%	1,937,000	本年度は取り組んだ5品目の5病害虫において、防除が困難となっている病害虫対策技術確立のための成果が得られ、目標値の達成度は100%と適切に実施された。今後さらに、従来の防除対策では防除が困難な作物について、防除技術確立のための試験研究を進める必要がある。	[モモ栽培におけるカイガラムシ類の防除対策の確立] 今年度はモモ栽培におけるカイガラムシ類の被害について試験研究されている。3種のカイガラムシ類歩行幼虫の発生時期の把握について複数圃場で4月～11月まで発生調査を行った結果（実測値）と、既存の発育ゼロ点、発育上限温度および調査地点での気象データから算出した有効積算温度から、発生ピーク時期の有効積算温度の推定を行い、有効積算温度から幼虫発生時期の予測が可能と考えられた。発育に関する形質値は、採集した虫の場所によっても違いがある（種内変異）と考えられることから、発育パラメーターの出典について記載していただきたい。
		従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の普及取組数 7回	7回	100%		7回	100%			

									<p>[感受性低下キュウリ炭疽病菌に対する有効薬剤]</p> <p>今年度は、薬剤感受性低下キュウリ炭疽病菌に対する有効薬剤の探索が行われた。品種の転換により従来は褐斑病に対して使用していた薬剤を使用しつつけた県内の地域において、近年は炭疽病菌にも薬剤感受性の低下がみられていた。その実態を明らかにするため岡山県の各所圃場から採集したキュウリ炭疽病菌株より、薬剤感受性検定が行われ、感受性低下菌の発生実態が調べられた。その結果、2つの剤を混合した市販の薬剤に対して、それぞれに抵抗性を持つ株があったことに加えて、両方の剤ともに抵抗性を持つ菌株の存在も検出できた。また、感受性低下菌は県内の一部圃場で発生しており、発生圃場における感受性低下菌の割合が高いことが明らかとなった。その対策として、別系統の薬剤の効果を試したところ、効果の高い合計8薬剤を見つけることができているため、評価できる。</p> <p>[薬剤感受性低下リンドウ褐斑病菌に対する有効薬剤]</p> <p>すでに確立した薬剤感受性検定を用いて、県内の現地圃場におけるリンドウ褐斑病菌に対するクレソキシムメチル感受性の実態を把握し、感受性低下菌に有効な薬剤を選抜できている。県農試でも簡易に薬剤感受性検定を実施できることを示した昨年の成果と併せて、評価できる結果と判断できる。</p> <p>[イチゴのアザミウマ類に対する天敵防除体系の確立]</p> <p>イチゴの害虫であるヒラズハナアザミウマに対して、天敵であるアカメガシワクダアザミウマと天敵の餌であるブラインシュリンプ卵を同時に圃場に撒くことで、慣行防除区、化学合成農薬区と同等の害虫密度抑制を実現できることを試験圃場で示している。試験区では、慣行区に比べて2回の農薬散布を減らせることができ、環境と消費者および農業従事者にとってやさしいと考えられる総合的害虫管理法を、少なくとも試験圃場において、確立できたと考えている。試験としては終了ということであったが、総合的防除の結果がクリアであることから、普及に下せるマニュアルの作成をしていただきたい。さらに普及所等と連携し、展示圃等を設置し、技術の普及を検討いただきたい。</p>
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

										[マイナー作物等病虫害防除対策（エンダイブ 腐敗病）] 岡山県におけるマイナークロップとしてのエンダイブ栽培で問題となる腐敗病の防除を目的とし、薬剤の効果および薬害試験を実施している。その結果、供試薬剤のアグレプト液剤の実用性が認められた。また薬害試験の結果で薬害は認められないことから、実用性も確認できている。但し残留農薬については課題が残り、この結果をメーカーにゆだねることは妥当であると判断する。
総 計・総合達成度				総合達成度 101% 総合評価 A				6,686,000		

都道府県等名：岡山県（特別交付型交付金）

目的	目 標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	事後評価	
		目標値	実 績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		評価及び指導方針等	第三者の意見
Ⅱ 伝染性疾病・ 病 害 虫 の 発 生 予 防 ・ ま ん 延 防 止	家 畜 衛 生 の 推 進	豚熱及びアフリカ 豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ 豚熱のまん延防止	達成	岡山県	豚熱及びアフリカ 豚熱のまん延防止	達成	768, 000	<p>野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延を防止するため、水際対策の強化として、岡山桃太郎空港や水島港における靴底消毒を実施することで、県内への豚熱及びアフリカ豚熱の侵入を防止する効果があった。</p> <p>アフリカ豚熱は韓国で飼養豚と野生イノシシで発生しており、特に釜山で野生イノシシの陽性事例が確認されている状況である。県内への侵入リスクが高いため、引き続き、本県における豚熱・アフリカ豚熱の侵入を防止するための水際対策を継続するとともに、関係機関と連携強化し、家畜伝染病の発生予防の体制を整備していきたい。</p> <p>今後は、発生防止対策として、農場における衛生対策の向上に対する取り組みを強化し体制を整備することで、家畜衛生の推進を図りたい。</p> <p>【専門家の意見】</p> <p>岡山県の主要国際玄関口である水島港・岡山空港は、コロナ禍において入国者数が一時的に減少していたが、最近はコロナ以前の状態に戻つつある。また、入国者の主要国籍もアフリカ豚熱発生国がほとんどを占めており、水際での防疫対策の重要性は以前よりも増している。本事業はこの潜在的危機に対する取り組みと考える。現在のところ、岡山県だけでなく、我が国でのアフリカ豚熱の発生は見られず、本事業のような各所での懸命な取り組みが功を奏している可能性も高いと推察され、取り組みは評価できる。本事業の継続が望まれる。</p>	<p>アフリカ豚熱が、日本・台湾を除くアジア各国に拡大し、韓国も北朝鮮からの野生イノシシ等による侵入リスクが指摘されるとともに、インバウンドの増加によりアフリカ豚熱など海外悪性伝染病の侵入が懸念され、国は水際対策として国際線における靴底消毒や税関手荷物検査を継続しており、岡山空港では手荷物検査で多くの畜産物の収去が行われてきた。一方、本県は中国・四国地域において地理的要衝にあるうえ、空港や水島港など海港からの、アフリカ豚熱など強い感染力を有するウィルス侵入リスクは高く、国が実施する空港の国際線に加え、県が国内線や水島港の外国船籍乗組員の靴底消毒を徹底し、水際対策を強化することは、豚熱・アフリカ豚熱対策として、十分機能していると判断する。今後とも、水際防疫の強化を継続することが、当県はもとより国内防疫の推進に寄与するものと考える。</p>
総 計 ・ 総合達成度				総合達成率 達成 総合評価 適正				768, 000		